

## 米共和党副大統領候補バンスとはどんな男か（571号）

2024年 7月 石館

15日に開幕した米共和党の全国大会は銃撃されたトランプ前大統領が登場して“団結”を演出した。党の政策綱領に同氏の主張を全面的に取り入れ“トランプ党”への変質が一段と進んだ。



トランプ氏は大統領選を共に戦う副大統領候補にバンス上院議員を充てた。

39歳の白人男性で、貿易・移民政策などでトランプ氏に近い。激戦州である中西部の白人労働者の地盤を固める狙いがある。

米共和、トランプ氏を指名 副大統領候補はバンス氏—「団結の機会 ...

バンス氏はラストベルト（錆びた工業地帯）と呼ばれる中西部オハイオ州ミドルタウンの出身。母親は薬物依存症で祖母に育てられた。高校を卒業して米海兵隊に入りイラクに駐在した。

退役後米オハイオ州立大学を卒業、米エール大法科大学院で博士号を取得し、法律事務所や投資会社などで勤務した。トランプ氏がラストベルト出身のバンス氏を起用した背景には、労働者層を取り込み、ヒラリークリントンを破った2016年の大統領選挙の再来につなげる思惑がある。

大統領選の結果を左右する激戦7州のうちラストベルトの中西部ミシガン、同ウイスコンシン、東部ペンシルバニアの3州をとりわけ重視する。バンス氏は16年の大統領選で共和党から立候補したトランプ氏を批判したことがある。後になって“彼が良い大統領になるとは思わなかった”と回顧し、トランプ氏擁護に転じた。22年の上院選でトランプ氏の推薦を受け初当選した。

ラストベルトとは：イリノイ、インディアナ、ミシガン、オハイオ、ペンシルバニア諸州を含むアメリカの地域をラストベルトと呼ばれている。この呼び名は、これらの地域の多くの産業が時代遅れの工場・技術に依存していることからつけられた。1970年代、激しくなる国際競争への対応策として製造業者が

これらの地域からアメリカの他の地域やメキシコに工場を移転、かつて繁栄していた工業地帯の経済が悪化したことによりこの名称が幅広く使われるようになった。

300km **ラストベルト※主な州**  
(さびついた工業地帯)



青矢印の先はバンスが生まれ育った  
オハイオ州ミドルタウン

これらの地域では工場閉鎖に伴って  
失業者が増加し多くの人々はこの地  
域を去った。赤矢印の先はピッツバ  
ークで1950年代から1980年代  
初頭にかけて、鉄鋼産業の縮小によっ  
て衰退したが近年、スタートアップ起

業や金融の中心として復興した。



鉄の街からハイテクの街へと生まれ変わった  
ピッツバーグ | 今日 ...

鉄の街からハイテクの街に変遷したピッ  
ツバーグ

バンスは東部の名門エール大学法科大学  
院に在学中の2016年、白人労働者階  
級の悲哀を描いた自伝“ヒルベリー・エレ  
ジー”を出版し、ベストセラーになった。  
同年の大統領選挙で白人労働者を“忘れ

去られた人々”と叫び、その怒りを支持に結びつけて勝利したトランプ氏の目に  
留まった。

その後、西部カリフォルニア州の投資会社に勤務。SNS でトランプ氏を批判し  
た時期もあったが、カリスマ的な人気を誇るトランプの推薦を受けて2022  
年の中間選挙に出馬初当選を果たした。

初当選を果たすと、“トランプ・チルドレン”の若手有望株として頭角を現し、“ア  
メリカ第一主義”に傾倒。孤立主義や保護主義の急先鋒となった。米国のウクラ  
イナ支援を“国益にならない”と切り捨て、日本製鉄によるアメリカ鉄鋼大手

US スチールの買収にも早くから異を唱えた。11月の大統領選に向けた共和党候補指名の予備選では熱心にトランプ氏の応援に駆け付け、忠誠心を示した。

しかしバンス氏がかって“ネバー・トランプ”（トランプ氏だけは絶対ダメ）と痛烈に批判していたことは、民主党にとって大きな攻撃材料になりそうだ。今の共和党で出世するにはトランプ氏に従属するのが唯一の道だとその日和見主義を批判するのは簡単である。政治家は多かれ少なかれそのような日和見の体質を持っており、現に最後までトランプと予備選で激しく争ったヘイリーも共和党大会でトランプ支持の演説をした。

4年先の大統領選挙を目指して、すでに選挙運動が始まっている。ヘイリーも当然その思惑から、現時点ではトランプを支持しておいた方が良いとの判断であろう。



米共和党副大統領候補バンス氏夫人のウシャさんインド系移民二...

バンス氏はヘイリー氏とは対照的に徹底した保守派のキリスト教徒だ。選挙戦略として、トランプはヘイリーを選んだ方が、女性の共和党支持者により幅広く訴えることが出来たであろう。

バンスは中絶に反対の立場を取っており、この点では民主党のハリス陣営にとって攻め易いであろう。しかし逆に言えばトランプは並々ならぬ自信があればこそバンスを副大統領に指名したともいえる。

保守派のシンクタンク、ヘリテージ財団が、トランプ氏率いる共和党が政権を取った際に進む計画としてまとめた“プロジェクト2025”をバンス氏ほど積極的に売り込んだ共和党上院議員はいない。バンス氏は、それを実現するための条件すべてを満たしている。キリスト教を信じるナショナリストで、グローバル化には批判的。NATOについても極めて懐疑的だ。一方ヘイリー氏はこれらの条件を満たしていない。

民主党はバンス氏が抱える弱点と彼が自らの出世のために如何に日和見主義で

来たかを攻撃すべきだし、またそうするであろう。民主党の大統領候補はほぼハリスに決まったようで、現時点ではハリスとトランプの支持率は意外だがほぼ拮抗している感じで、トランプ側も戦術の立て直しを図らなければならないかもしれない。

ハリス側もこれから徹底的に弱点を洗い出されるであろうが、一方バンスもハリスを出産経験がないなどの発言で女性からの猛反発を受けているなど、バンスを副大統領候補にしたことは足かせになるかもしれない。

民主党のオバマ前大統領をはじめとして、民主党の長老たちが一丸となってハリスを支持するようになれば、バイデンの撤退で一時暗雲が立ち込めた民主党陣営の勝負の行方は意外と分からなくなるかもしれない。